

# 加古郡 リサイクル プラザへ 行こう！



播磨町新島にある『加古郡リサイクルプラザ』では、稲美町・播磨町の家庭から出る粗大ごみ・不燃ごみ・ペットボトル・容器包装プラスチック・剪定枝などを中間処理し、そこから有効資源を回収する施設です。他にもさまざまな「ごみを減らすこと」「物を大切にすること」を目的とした取り組みを行っています。

## ごみを減らすための「3R」という言葉を知っていますか？

「リデュース（ごみを減らすこと）」「リユース（何度も使うこと）」「リサイクル（再資源化すること）」の3つの言葉の頭文字をとって3Rです。

石油や鉄、アルミなどの資源物に乏しい日本では、リサイクルするということは大切なことではあるのですが、一方でリサイクルにはたたくさんの石油、電気、水などを使わないとできないという側面もあります。

まず、大切なのが「リデュース」です。無駄な物を買わないことや、なるべく長く使える物を買うことなどがあります。そ



### 加古郡リサイクルプラザの利用について

**開館時間** 水～日曜日の9:00～16:00  
**休館日** 月・火曜日及び年末年始  
**ベビー用品貸出日** 水～日曜日の9:00～16:00  
 (月・火曜日は休館日)  
**工場棟見学可能日** 水～金曜日  
 ※祝日を除く(要予約)  
**粗大・不燃ごみの搬入**  
 月～金曜日 8:00～15:30  
 (12:00～13:00は除く)  
 土曜日・祝日 8:00～11:30  
 日曜日 休み  
 ※本人確認のため、受付で運転免許証を提示していただきます。

## リサイクル体験教室

様々なリサイクル体験教室を開催しています。夏休みには「お助け工房」を開催し、連日たくさんのお小学生でにぎわっています。大人の人も一緒に楽しめる教室を多数準備していますので、ぜひ参加ください。



親子木工教室

## 図書館のリユース本

図書館で整理された書籍などをリユース本として陳列して、一冊20円で必要な人にお分けしています。売り上げは、寄付金として社会福祉協議会へ寄付されます。(平成29年度は64,172円を寄付しました。)



## まだまだ使える粗大ごみ

搬入された粗大ごみの中には、そのまま使えるものや、少し手を加えるだけで充分に使える家具がたくさんあります。それらをリサイクルプラザで展示し、入札により提供しています。



リユース家具

## 加古ちゃん有機肥料

加古郡リサイクルプラザでは、剪定枝のチップと隣接する衛生センターからでた有機汚泥とを自然発酵させた「加古ちゃんの有機肥料」を販売しています。100%有機質で土壌を柔らかくし、化学肥料とは違い微生物の働きにより肥効をゆっくり持続させます。また、臭気も少なく大変好評です。販売は、加古郡リサイクルプラザで行っていますが、いなみ野体育センター

の次に「リユース」、すぐにごみに出してしまわず、修理して使ったり、誰かに使ってもらうことを心がけ、「リサイクル」は最後の手段であるということを感じておいてください。

また、日本では、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなどの本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」が年間500～800万トンあるとされています。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食糧援助量(平成26年度で年間約320万トン)を大きく上回る量です。食べ物だけでなく、身の回りにある無駄をなくし、物を大切にすることを心がけ



## 工場棟見学のお知らせ

ごみ処理工場の見学を通して資源ごみのリサイクルを学び、楽しみながらごみの減量や再資源化について考えてみませんか。見学の申し込みは、加古郡リサイクルプラザのホームページ <http://kakoisei.or.jp/wordpress/>「視察・見学の申し込みについて」のページをご覧ください。



## ベビー用品の貸出

加古郡リサイクルプラザでは、住民の皆さんが提供していただいたベビー用品の貸出を行っています。「物を大切にし、物を生かす心を養うこと」を目的とした取り組みです。平成29年度には2,914件の貸出を行い、利用者にはたいへん喜ばれています。ぜひ、一度ご利用ください。

◎稲美町・播磨町の人に優先的に借りていただけるよう、専用棚を設置してあります。

◎人気の品は一時欠品になる場合もありますのでご了承ください。

◎取り置きはできませんが、お電話での在庫確認には対応させていただきます。

◎貸出期間は一年間(延長も可)



ベビー用品の貸出

## マイクロプラスチックを知っていますか？



マイクロプラスチックという言葉をお聞きになったことはあるでしょうか？紫外線や波で砕かれて5mm以下になった、海洋上のプラスチックごみのことをマイクロプラスチックと呼びます。これを海鳥や魚などの生物が、餌と間違えて誤飲し、その生態系に悪影響を及ぼしていると言われています。南極海や北極海など、人の住んでいない地域からもマイクロプラスチックは見つかっていて、もはや世界中の海でマイクロプラスチックの含まれていない海は存在しないと言われています。紫外線や波に砕かれて小さくなった物だけでなく、繊維製の衣服や、汚れのよく落ちるメラミンフォーム製の白いスポンジなどからもマイクロプラスチックは放出されていますし、歯磨き粉や洗顔剤に入っているマイクロビーズと呼ばれるプラスチック製の研磨剤も海中から見つかるマイクロプラスチックのひとつです。

東京湾のカタクチイワシを調査したところ、その8割の胃袋の中からマイクロプラスチックが検出されたという調査結果や、海水から作った塩の中からマイクロプラスチックが発見されたという報告もあります。今後、世界中で製造されるプラスチックは益々増える一方で、2016年にスイスのダボスで開催された世界経済フォーラムでは、世界の海に漂うプラスチックごみの量は、2050年までに重量換算で魚の量を上回るという予測が発表されました。

欧州ではストローなどの使い捨てプラスチック製品の使用を2030年までにゼロにする目標を掲げていますが、日本ではまだ規制されていません。スーパーに買い物へ行くと、ほとんどの物が容器包装プラスチックで、丁寧すぎるほどに包装されています。今更、プラスチックのない生活は考えにくいのですが、便利だけを求めるのではなく、たった一度使うだけでごみになってしまい、場合によっては環境を壊しかねない容器包装プラスチックやペットボトルの制限のない使用について、私たち一人ひとりも見直していく必要があるのではないのでしょうか。